

# 牛久：学校周辺に見る自然

第43号 牛久市小坂，正直町，ひたち野西

2010年10月31日発行

## ＜ちょっとマイナーな果実たち＞

前号では、秋の味覚の代表格であるカキとクリについて書きました。今回はちょっとマイナーですが、茶碗蒸しに入っている銀杏（イチョウ）と、スーパーマーケットでも季節になると見かけるようになったミツバアケビです。



↑ 受粉滴という液滴を出し花粉を受け止める雌花  
4/26牛久市正直町

↑ 成熟した銀杏をつけるイチョウ 10/1牛久市小坂    ↑ まもなく開花する雄花4/26牛久市正直町

まずイチョウ（イチョウ科）。イチョウは以前ご紹介したカヤやマツなどと同じ裸子植物ですから、果実のように見える”実”も本当は種子なのです。種子の皮（種皮）が発達して多肉質の部分と硬い核をつくり、食用部分は胚乳（と胚）ということになります。雄の木と雌の木があって、雌花からは受粉滴という液滴を出して花粉を受け止め中に運びこみます。ちょっと難しいですね。興味を持ったら、中学、高校でもっと勉強してみましょう。



↑ 開花中の雌花（大きい方）と雄花 4/20ひたち野西

次はミツバアケビ（アケビ科）。一つの木に雄の花と雌の花が付きまします。写真の大きい方が雌花ですが、花弁のように見えるのはがくで、じつは花弁はありません。小さくてたくさんついているのが雄花ですが、こちらも花弁はありません。甘い果肉ごと鳥などに食べられて、種子が運ばれるといわれています。種子を運んでくれるご褒美を用意しているのですね。そういえば、口を開けて果肉をのぞかせ鳥たちを誘っているようにもみえます。【理科支援員・宮内】

↑ 紫色を帯びて成熟し口を開ける10/13ひたち野西